

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

放送業務委員会（第 39 回）議事概要（案）

日時：令和 2 年 1 2 月 9 日（水）15:00～17:00

場所：Web 会議(Skype for Business)

出席者：

都竹主査（名城大学）、伊丹主査代理（東京理科大学）
赤羽専門委員（NTT 未来ねっと研究所）、岩田専門委員（(株)テレビ東京）、
浦野専門委員（日本テレビ放送網(株)）、岡村専門委員（(株)テレビ朝日）、
児玉専門委員（日本放送協会）、下地専門委員（パナソニック(株)）、
中村専門委員（日本放送協会）、西田専門委員（日本放送協会）、
日野専門委員（(株)TBS テレビ）、廣野専門委員（(株)フジテレビジョン）、
三木専門委員（三菱電機(株)）、柳原専門委員（(株)KDDI 総合研究所）、
山影専門委員（東芝インフラシステムズ(株)）

説明員

薮氏（日本放送協会）、大久保氏（日本放送協会）、保谷氏（(株)フジテレビジョン）、
甲斐氏（日本テレビ放送網(株)）、熊丸氏（日本放送協会）、齋藤氏（日本放送協会）

事務局：

総務省 情報流通行政局 放送技術課

荻原課長、福島技術企画官、服部補佐、植田係長

【配布資料一覧】

資料 放-39-1	放送業務委員会（第 38 回）議事概要（案）
資料 放-39-2	WP6A 会合報告書
資料 放-39-3	WP6B 会合報告書
資料 放-39-4	WP6C 会合報告書
資料 放-39-5	SG6 会合報告書
資料 放-39-6	TG6/1 会合報告書
資料 放-39-7	<u>今後の検討の方向性</u>
資料 放-39-8	今後の検討スケジュール（案）
資料 放-39-9 （参考資料）	国際電気通信連合（ITU）2023 年世界無線通信会議（WRC-23）の議題一覧（第 146 回情報通信審議会情報通信技術分科会資料一部抜粋）
資料 放-39-10 （参考資料）	放送業務委員会構成員名簿

※下線部の資料は構成員及び関係者限り。

議事概要

1. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

2. 前回議事概要の確認

都竹主査より、資料 放-39-1「放送業務委員会（第 38 回）議事概要（案）」に基づき、第 38 回放送業務委員会の議事概要が確認された。議事概要案について構成員からの意見はなく、案のとおり総務省 HP に掲載することとなった。

3. ITU-R SG6 関連会合の結果について

3.1. WP6A 会合の結果について

薮氏より、資料 放-39-2「WP6A 会合報告書」及び資料 放-39-7「今後の検討の方向性」に基づき、WP6A 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

西田専門委員： WRC-23 議題 1.4 「2.7GHz 以下の IMT 特定された周波数帯における IMT 基地局としての高高度プラットフォームステーション(HIBS)の利用の検討」について、放送用 UHF 帯にかかる部分もあり、共用検討について懸念している。地上同士の混信ではなく上空からの干渉であり、レポート BT. 2075 が参考になると考えられるが、WP6A 会合では SG5 で作成された HAPS との共用検討に関する F シリーズレポートに放送側も目を通しておくことが推奨された。

都竹主査： 上空からの干渉波の問題と理解した。

中村専門委員： 米国における ATSC3.0/5G 混成ネットワークの検討状況を知らせる寄書があったとのことだが、5G 周波数は通信用周波数を想定しているのか、放送用周波数を想定しているのか。

薮氏： 放送用周波数（200-700MHz 帯）を 5G で使用するというのではなく、ATSC3.0 等放送事業者に割り当てられている周波数に、5G と同じ形式で互換性のある信号を埋め込み、データキャストなどに利用することを意図したものと思う。

中村専門委員： 引き続き情報提供頂きたい。

中村専門委員： モンテカルロシミュレーションの検討に対し、日本からどのような寄与を行っているのか。また、本件についての第一地域以外の国の反応は。

薮氏： 日本からもラポータグループに参加して、シミュレーションのクロスチェックや新勧告に記載の共用検討のパラメータ表の作成等に貢献している。他国の反応については、策定された新勧告案は地デジと他システムの共用検討方法として歓迎されているように見えた。

3.2. WP6B 会合の結果について

大久保氏及び保谷氏より、資料 放-39-3「WP6B 会合報告書」及び資料 放-39-7「今後の検討の方向性」に基づき、WP6B 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

浦野専門委員： オブジェクトベース音響用音声符号化方式の要求条件に関する日本寄書に対し、品質評価方法について異なる意見があったとのことだが、現地での議論の概要を具体的に教えて頂きたい。

大久保氏： ビットレートの要求条件を検討するにあたり、制作用レンダラーや受信側レンダラー等レンダラーによって求められる品質が異なるという意見などが出された。日本提案は基本的に賛同されたが、評価には条件を考慮する必要があるということで、その場では深い議論にはならず継続検討となった。

3.3. WP6C 会合の結果について

大久保氏及び甲斐氏より、資料 放-39-4「WP6C 会合報告書」及び資料 放-39-7「今後の検討の方向性」に基づき、WP6C 会合の結果について説明が行われた。

都竹主査： 日本寄書については順調に進んでいるとみて良いか。

甲斐氏： WP6C においては順調と考えている。

西田専門委員： 日本寄書については特段支障なく進んでおり、SG6 に提出された文書の多くが日本からの寄与に基づくもの。日本が果たしている役割は大きく、これが他国からの寄与の呼び水になると良い。

都竹主査： COVID-19 の影響はあるのか。

西田専門委員： 大きくは影響していない。時間が足りず継続検討とされた案件もあるが、大部分は適切に議論・処理されたと考えられる。

3.4. SG6 会合の結果について

熊丸氏より、資料 放-39-5「SG6 会合報告書」に基づき、SG6 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

都竹主査： 次回会合もオンラインで開催されるのか。

熊丸氏： まだ決まっていないと認識している。

西田専門委員： 公式には未定だが、今回同様のリモート開催となる見込みである。

3.5. TG6/1 会合の結果について

齋藤氏より、資料 放-39-6「TG6/1 会合報告書」に基づき、TG6/1 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

都竹主査： 通信側の圧力を感じるころであるが、会合の雰囲気はどうか。

齋藤氏： 議論に時間がかかるケースが多かったように感じた。放送側が詳細記載した文章について通信側が削除を要求するなど、調整に時間を要する場面がみられた。

4. その他

4.1. 今後の検討スケジュールについて

事務局より、資料 放-39-8「今後の検討スケジュール（案）」に基づき、今後のスケジュールについて説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

都 竹 主 査 : 次回 TG6/1 会合に向けては5月の放送業務委員会で審議するのか。

事 務 局 : TG6/1 会合への対処方針については、寄書の状況にもよるが、メール審議も視野に入れて主査と相談させていただきたい。

以上